インド・アッサム州で動きだしたプロジェクト

～ 平等研究センターのアブドゥール氏に聞く ～

聞き手・木村真希子（ジュマ・ネット運営委員）と下澤嶽（ジュマ・ネット共同代表）

平等研究センターとジュマ・ネットと共同プロジェクト。女性の自助グループのメンバーが刺繍工芸品を縫う

はじめに

インド・アッサム州では、不法移民（主にバングラデシュ人）の排斥運動が強く、2013年から全国市民登録簿を更新し、外国人を特定する作業を政府は進めてきました。2019年に更新された名簿が公開されたのですが、3300万人の申請者の中で、約190万人が名簿から外されました。以前から外国人と認定されて、拘留所に拘留された人もおり、大きな不安となっています。自分が移民でないことを訴えるためには、外国人審判所に必要な書類を提示する必要があり、さまざまな費用もかかるため、貧しい人々にとっては大きな負担となっています。ジュマ・ネットとしては、すぐに政策を変えることは難しくても、現地のNGOと協働して、現場の人々の支援と情報収集を進める活動を進めています。

190万人のゆくえは？

木村●今日は、お忙しいところ、朝早くからネットでの対話にお時間をいただき、ありがとうございました。コロナに感染したとお聞きしましたが、完全に回復されましたか？

アブドゥール●ありがとうございます。ようやく働けるくらいに回復しました。こちらでもまだ多くの人が感染して、大変な状況です。

平等研究財団のアブドゥール氏とインターネットで対話

木村●今日は、2019年8月に、インドで発表された全国市民登録簿に190万人の人が登録されず、違法な移民として扱われるかもしれない状態が発生しています。その後のそちらでの動向はいかがでしょうか？

アブドゥール●全国市民登録簿の更新をめぐる動きは、コロナの影響もあって今は進展がありません。第一に、政府は登録されなかった人に拒否命令を出し、それをもって人々は外国人審判所に出頭して手続きを進めるはずでした。ところが、拒否命令が出されていません。理由は、更新を担った事務所が多くの人がなぜ登録されなかったのか、理由が示せないためと言われています。第二に、外国人審判所を現在の百から2百に増やす予定です。しかし、審判員をはじめ、事務職員の雇用等の作業が追い付いていません。コロナでさらにこの作業が遅れています。最後に、2019年に改正された市民権法の影響で、アッサム州で土地のアッサム人の文化やアイデンティティを保護するための委員会が設置されています。この委員会は、アッサム人「の定義を1951年以前から州に住んでいる人、としました。これにより、再び議論が起き、大きな問題となっています。

拘留所の人々の現状

木村●拘留所に拘束されている人たちの様子はどうですか？

アブドゥール●外国人と認定された人は、これまで無期限に拘留されていましたが、2019年の判決により、3年以上拘留された人は解放されるようになりました。新型コロナの蔓延で、勾留所が狭くて感染の危険があるということで、2年以上拘束されている人を解放するように決めましたが、解放されたのは300人くらいと言われています。6つの拘留所に1千400人くらいるといわれていますから、まだ一部ですね。拘留所の中は、寝る場所も片手くらいのスペースしかなく、ベットも毛布もなく、一部屋に15人ほど押し込まれています。トイレも臭く、食事もひどくまずくて、量も少ないと聞いています。

木村●解放された人たちは普通に日常の生活に戻れているのですか？

アブドゥール●解放後も、遠隔地に移動することが許されていません。さらに、毎月地元の警察署に出頭して、定期的に報告する義務があり、とても大変な状態です。

木村●そちらの活動地では新型コロナ以外に何か問題がありますか？

アブドゥール●活動地のボルペタでは、洪水があり大きな被害が出ています。とくに川辺や低地に住んでいた人たちの被害はひどく、家の浸水だけでなく、作物なども大きな被害を受けました。どこからも支援がなく、貧困層は大変な状況です。そのため、人

身売買の被害に遭った人たちもいました。また、新型コロナのため家にこもることが多くなり、家庭内暴力も増えていると言われています。

190万人の人々はどんな人たち?

下澤●全国市民登録簿に漏れた190万人はどういった人が多いのでしょうか?

アブドゥール●正確な情報が公開されていませんが、これまでいろいろな場で見聞きしたことで推測すると、東ベンガル(現バングラデシュ)に起源をもつイスラム教徒、ヒンドゥ教徒が多いと思います。その中には、ネパリー、ボドなどのエスニックマイノリティも一部含まれています。

下澤●そうなんですか。イスラム教徒が多いと思い込んでいました。

アブドゥール●そうではありません。イスラム教徒は190万のうち、50万人くらいではないかと言われています。また、貧しい世帯の女性や子どもが多いのが特徴です。おそらく書類がないか、不備があって、女性や子どもに集中したのではないかと思っています。女性の場合は、18歳以下で結婚していることが多く、学校にもいかないことが多いので、行政からの公式な証書などを手に入れたり、選挙名簿に名前を入れることがあまりないのです。

木村●そういった人たちはどうやって移民でないことを証明できるのでしょうか?

アブドゥール●村の自治組織であるパンチャヤットの役員が住民であることを証明した書類を、証拠として扱う場合が見られますが、書類の不備があったり、それを認めない場合もあったりと、必ずしも決め手になっているとは言えないと思います。

木村●名簿から外されたことで一番大きな不利益はなんでしょうか?

アブドゥール●投票できないのはもちろんですが、それ以外に、銀行口座が開けません。また、政府からの配給物資などももらうことができません。現地の多くの政治家たちも、彼らは票田にならないので、この問題にたいしては関心が薄く、冷ややかです。

進みだしたプロジェクト

下澤●現在ジュマ・ネットと共同で進めている支援活動はどういった状況でしょうか?

プロジェクトの一部である教育事業の指導者のためのトレーニングの様子

教育支援活動のため、貧困世帯の聞き取りをするスタッフ

アブドゥール●はい、新型コロナの影響で開始がだいぶ遅れてしまいましたが、少しずつ進んできています。活動は 収入向上活動」「児童教育活動」の3つ「情報メディア活動」あります。

まず収入向上活動ですが、25人の女性グループが結成されました。手工芸品づくりのトレーニングにあわせて、女性の権利、家庭内暴力に関するセミナーも実施しました。政府の家畜事業にも参加して、5万ルピーの支援金もらうことができました。政府の手工芸品販売所に品物を出すこともできました。これからは男性グループを結成し、稲作用の灌漑ポンプの設置と修理技術の研修をしていこうと思っています。

下澤●順調そうですね。児童教育活動はいかがですか?

アブドゥール●2年生から6年生の児童30名を対象に、補修授業をやっています。この子どもらは川のそばの湿地でくらす貧しい子どもばかりです。すべての子どもの教育と成長がわかるように詳細な記録をつけています。地域の大人たちの協力も得られており、5人の臨時雇いの教員がいますが、やる気満々で、順調に進んでいます。教員たちの提案で体育授業などもやることになりました。

下澤●情報メディアの活動はどうでしょうか?

アブドゥール●今のところ、ビデオやカメラなどで、新型コロナのロックダンの影響、洪水の影響からくる課題について、村の貧しい人のインタビューなどを通して、記録をつくっています。また、これからは、全国市民登録簿から外された人々の生活、課題、彼らの声を記録し、インドだけではなく、広く世界に知らせていきたいと思っています。

下澤●今後は、名簿から外された人々のネットワークづくりや裁判支援などを通して、少しでもいいので、声を出す」ケースをつくっていきたいですね。また、彼らの横のネットワークづくりも期待したいです。

アブドゥール●そうですね。新型コロナの影響で、まだ十分仕事を進められていませんが、徐々にそういった政治力を付けていく作業もしていきたいです。

木村●私たちも応援していますので、情報共有しながら、一緒にすすめていきましょう。今日はお忙しいところありがとうございました。